



羽村市立栄小学校

学校だより No.4

<7月号>

「出会い・体験・サポート」が生み出す、子供たちの「夢」

校長 杉森 祥吾

少しずつ暑さが増し、夏の訪れを感じる季節となりました。6月は、「ふれあい月間」として、いじめの未然防止や人権について全校で考える取組を進めてまいりました。中でも、「ハートフルウィーク」で子供たちが書いてくれた付箋には、友達を大切にしたいという思いが溢れており、相手を思いやる温かな言葉や行動、そして、笑顔が一層広がった1か月となりました。ご家庭での声掛けや見守りにも改めて感謝申し上げます。

さて、現在開催されている 2026 サッカーワールドカップでは、日本代表の選手たちが世界を相手に果敢に挑戦する姿を見せてくれました。選手たちは、日本代表になりワールドカップに出場するという「夢」を実現し、さらには「世界一になる」という高い目標を掲げ、挑戦を続けました。仲間と励まし合いながら強豪国に立ち向かうその姿は、私たちに大きな感動を届けてくれるとともに、「夢の土台づくり」を目指す本校の子供たちにとっても、大きな学びとなったことは間違いありません。

ところで、選手たちはこのような大きな「夢」をなぜもつことができ、さらには実現することができたのでしょうか。世界的なスポーツ選手の自叙伝に目を向けると、多くの選手が幼少期に「興味を惹かれる人との出会い」があり、それをきっかけとした「心を揺さぶられる体験」をしていたという共通点が見えてきます。多感な子供の時に感じた「やってみたい」「成し遂げたい」という衝動は、人生を大きく変えるほどの力をもつことがよく分かります。ぜひ、学校でも様々な分野のゲストティーチャーから学ぶ機会や多様な体験活動の場を用意し、「自分の夢」をすべての子供たちがもてるよう、学習環境の整備に力を入れていきたいと思います。

そして、夢を実現した多くの選手が語っている、もう一つの要因が「サポートする大人」の存在です。失敗やけがで挫折しそうになった時、励まし、献身的にサポートする周りの大人の存在が、意欲を継続させ、夢の実現につながったと語っています。子供たちに芽生えた「夢」や「目標」は、時に本人の努力だけでは超えられない壁にぶつかることもあります。その大切な芽が大きく育つかどうかは、近くで関わる大人の力にかかっているように私は感じます。この栄小には、今、夢の種を見付けた子供たち、そして夢が芽吹き始めた子供たちがたくさんいます。ぜひ、教職員、保護者の皆様、地域の皆様の力を結集し、いっしょに子供たちの「夢」を育てるサポートをしていけたら幸いです。いつか子供たちが大人になった時、「栄小時代のあの経験が、自分の夢の原点だよ!」という話をしてくれたら、本当にうれしいですね。